

# 肝細胞癌における腫瘍関連マクロファージの 役割の画像的・免疫組織学的検討

## 【はじめに】

腫瘍内に存在するマクロファージ(免疫を担当する細胞)である腫瘍関連マクロファージは血管新生を促進するなど、腫瘍の進展に重要な役割を果たすことが知られています。一方、血管造影下CTの画像所見は肝細胞癌の血管新生を鋭敏に反映します。また、SPIO(super paramagnetic iron oxide)は肝のマクロファージに取り込まれる造影剤であり、投与前後にMRI(T2\*強調画像)を撮影してその信号低下度を計測すれば、マクロファージの機能が定量化できます。

今回、私たちは、肝細胞癌において腫瘍関連マクロファージがこれらの画像所見に影響するかどうか検討します。

## 【対象】

九州大学病院で肝細胞癌と診断された方の、血管造影下CTやSPIO-MRIの画像および切除標本(期間:1993年1月1日から2010年3月31日、症例数:50例)を対象とします。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## 【研究内容】

肝細胞癌の切除標本を使って、腫瘍関連マクロファージの数や血管新生の程度を免疫組織学染色で調べます。これらの染色の結果と、血管造影下CTやSPIO-MRIの画像を比較することで、腫瘍関連マクロファージが画像所見にどう関わっているのか考察します。

## 【患者さんの個人情報の管理について】

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学医学研究院 臨床放射線科学においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。また、本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

## 【研究期間】

研究を行う期間は承認日から2014年3月31日まで

## 【医学上の貢献】

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、画像により腫瘍関連マクロファージの役割が予測できれば、将来研究成果は肝細胞癌の進展機序の解明および新しい治療法の発見の一助になりうると考えます。

## 【研究機関・組織】

九州大学大学院 医学研究院 臨床放射線科学分野 教授 本田 浩(責任者)

九州大学大学院 医学研究院 臨床放射線科学分野 助教 藤田 展宏

九州大学病院 放射線科 助教 西江 昭弘

九州大学病院 放射線科 助教 浅山 良樹

九州大学大学院 医学系学府 形態機能病理学分野 大学院生 久保 雄一郎

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 Tel:092-642-5695 担当者: 藤田 展宏